

園長だより NO123



2026.5.8

大きくなったこと

進級、入園から1か月が過ぎました。混沌としている状況から次第に安定に向かっていきます。子ども達の生活、居住空間、クラスの移動など、所変われば、少なからず心の動揺、揺さぶりが起こります。心の中が浮足立っている、ふわふわしている等、生活での安定感が少々、ゆらぎます、毎年の事ですがひとつ大きくなったということが内面の活力を生み出し、身体への行動を起こそうとする力と連動します。ただ、まだまだコントロールするほどの力は持っていません。これから育てていくのです。大きくなったから「なんでもできる、できちゃう」と気持は大きくなるけど空回りという姿もしばしば見かけます。

進級当初で大切にしていることは子ども、子ども達の遊びの時間を十分つくること、ダメ、いけないと規制しないこと、やりたいことがあれば危険なこと以外はなんでもやらせようという心持ちで子ども達と過ごすよう心がけます。

内面の活力と身体が動くはぐな面が遊びを通じて律し共応していきます。楽しいな、面白いな、遊びの中での様々なプラス思考や体験が徐々に心の安定に結ばれていきます。

「今日は何をやるかな、誰とあそぼうかな」子どもなりの日々の目当てをもって生活できるようになっていきます。

2歳児のある男の子、4月当初はめそめそと涙を見せていましたがクラスの子ども達、保育者と共に遊びを通じて少しずつ自分を出しはじめました。自分の要求を伝える場面が増えてきました。自分で園庭を探索して気に入ったあそび場をみつけていきます。この時期、お天気が良ければ、早々の水遊び、泥遊びが始まります。汚しっぶりもみごとです。洗濯には労力をいただいていることに感謝しています。

毎日、毎日、水と泥と対峙する子ども達もいます。進級、入園当初に夢中に没頭できるあそびをみつけたことでいきいきと活動しています。先にあげた2歳の男の子も気づけば畑に腰をおろし、土との対話を楽しみ遊んでいる姿が見られています。

遊べ、遊べと言っています。子どもの仕事は遊びといい、遊ばなくては生きていく術をも学べないのです。やりたいと思ってアクションを起こし、いろいろと試してみる。それはみんな自分の意志で動き、遊んでいる。

4月はまさに混沌としている、ごたごたしている時期、これがないと安定には向かっていかない。この時期、理路整然としていたら子ども達は自分の意思を持たない。それぞれがしっかりとその子なりの思いをもって生活できることが大切と考える。

手間暇かかって当然、大人の思惑は裏切られ

て当然、子どもの行動や思惑は時として大人の予想を裏切るものです。大人の思い通りにならないのが子どもなのです。そんな姿に「気持ちを荒げたりしないこと」「がっかりしないこと」「自分の育児に否定的にならないこと」 気ぜわしい毎日ですが、何をしていても やってもかわいいと思えるのが子ども時代なのです。面白がること、楽しいとは異なった感覚です。子どもの織りなす行動の一つ一つを面白がることです。

子ども達が大きくなるとは できることがたくさん増えてくることですが すんなりとできるわけではありません。失敗だらけ、つじつまの合わない行動も多々あり、そんな経験、体験をする環境があるのが保育園ではないでしょうか 当然、家庭でも同様なのですがワンオペ、ツーオペで子どもと向き合ってしまうと面白がることを忘れ、「こうあるべき」という感覚や思いが芽吹いてしまう。できないことに目が行ってしまい、つつい教えたがり病がでてしまうものです。

子ども達の成長は早いものですが心もちはゆっくり、右をみて、左をみて、様々なものに触れ、子どもの起こす行為、行動に面白がり付き合うことが大切と思っています。

こどもの傍らにいて心を寄り添いながら共に心が安らげることが子どもの成長の源をより豊かにしていきます。

赤ちゃんのいる生活

身近にある乳幼児の施設の中で保育園には赤ちゃんがいます。つぶらな瞳で微笑んでいる表情をみると心が穏やかになります。身体の隅々まで幸せのホルモンが行きわたっていき感覚になります。最近ではあまり見かけなくなった光景ですが。赤ちゃんが母親と散歩にでかけると、その道々で声を掛けられること、「何カ月ですか?」「かわいいね」「おんなの子?男の子ですか?」とそんな光景をみると、つい自分も当事者のように心地よい気持ちになります。

5歳児の子も4歳児の子も保育園で生活している子ども達のすべてに赤ちゃんの時代があったのです。春の入園の時期にはそれぞれの赤ちゃん時代を回想することがあります。

赤ちゃんの一つ一つの成長を待ち望む親の気持ちと同様に保育園でかわる保育士(職員)もより良い成長を待ち望み共に生活します。これから先、微笑ましい体験ばかりではなく苦労もあります。ただ、どれほどの苦労があっても子どもの成長が苦労を包み込んでしまうほどの喜びを与えてくれます。

いつの時代も変わらず子どもの成長は心から嬉しいものです。

赤ちゃんのいる生活がかかわるすべての人の心を豊かにしていきます。これからの成長、先へ先へと育て急がずに進んでいきたいものです (おぞら保育園 園長 廣部信隆)

